

芳香漂わせ、サガリバナ咲き始め

2011/05/23 09 時 06 分 配信 - 科学・環境 -

夏季に一夜限りの芳香を漂わせることで知られるサガリバナ（サガリバナ科）が、今年も咲き始めた。宮古の自生地で植栽木が生長している平良添道のサガリバナ遊歩道では19日夜、いくつかの茎についた花が咲いているのが観察できた。

サガリバナは、国内で奄美以南に自生するとされ、約十メートルの高さに成長する常緑小高木。湿地帯や川沿いなどにあることから別名サワフジとも呼ばれる。

40センチ以上となる1本の細い茎に50～60の花を房状つけて垂れ下がることが名前の由来。現在は苗の普及に伴い、街路樹や庭木としても幅広く植栽されている。

添道のほか、宮古島環境クラブ（下地邦輝会長）の取り組みで下地嘉手苺のヤーバルやすらぎの森公園にも200本以上が植栽され、新たな観察地となっている。

枝の先端から茎が出ているサガリバナはまだ少なく、これから気温が上昇すれば6月中旬ごろが開花のシーズンが始まり、7月にピークを迎える。9月ごろまで観察することができる。



芳香を辺りに漂わせて花を咲かせるサガリバナ＝19日午後11時20分ごろ、平良添道の遊歩道